

子どもの居場所づくり、地域との絆を深める活動



学校	学校運営協議会	地域学校協働活動推進員等数 (赤字は内学校運営協議会委員数)	地域学校協働本部
八王子市立 いずみの森義務教育学校	いずみの森義務教育学校学校運営協議会 令和2年4月1日 設置	地域学校協働活動推進員 5名 1名 地域コーディネーター 0名 0名	いずみの森協働本部



取組の背景及び目標や目指す姿

背景

令和2年4月に、第六小学校と第三中学校が合併し義務教育学校として開校することとなり、地域コミュニティの中心となる学校のあり方を検討する取組が始まった。

目標や目指す姿(学校)

居がい、やりがい、学び外のある学校
地域に愛され、信頼され、誇れる学校

目標や目指す姿(地域)

コミュニティスクールとして、地域の教育力との融合を図る。
複合施設の利点を生かし地域住民との交流を促進する。



いずみの森義務教育学校学校運営協議会 の特徴

委員の立場や属性等

- | | |
|--------------------------------------|---------------------------------|
| <input type="checkbox"/> 地域学校協働活動推進員 | <input type="checkbox"/> 青少対委員長 |
| <input type="checkbox"/> 保護者・PTA関係者 | <input type="checkbox"/> 地域代表 |
| <input type="checkbox"/> 民生児童委員 | <input type="checkbox"/> 校長 |
| <input type="checkbox"/> 町会長 | など、計 9 名で構成 |
| <input type="checkbox"/> 保護司 | 年間平均 11 回程度開催 |

効果的な運営の工夫

- ・月1回の定例会は、開催前には開催日時と傍聴申込の案内をメール配信で周知。開催後は速やかに議事録をHP掲載。
- ・定例会以外に、学運協会長と地域学校協働活動推進員が職員室を訪問し、教職員と懇談。
- ・日常の授業風景等を学運協委員が参観。



特徴的な取組と成果・効果

学校運営協議会

子どもの居場所づくりとして学校図書館の活用方法について検討。授業、休み時間、放課後、長期休業中等について検討。



学校運営協議会定例会

地域学校協働活動

学校図書館運営支援として、図書の貸し出し・返却業務、図書館内の環境整備・壁面装飾の実施、夏休み期間中の蔵書点検、放課後や長期休業中の図書館開放などを行う。



図書館開放支援

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的実施」のための工夫等

学校コーディネーターを中心に、図書館運営に関わる地域ボランティアを募集した。授業日の休み時間には地域ボランティアによる図書の貸出・返却業務を行っている。夏休みには地域ボランティアとPTAとともに蔵書点検を行った。今後は子供の居場所づくりとして、放課後の学習スペースとして学校図書館を開放し、その運営を地域ボランティアが担当する。

取組

成果・効果

- 休み時間の貸出・返却業務を地域ボランティアが行うことで教職員の負担が軽減された。
- 子供の居場所が増え、保護者や教師以外の大人との関わりが増えた。
- 地域の人がボランティアとしてかかわることで、自分の地域にどのような子が存在しているか把握でき、地域の安全にもつながっている。
- 児童・生徒と関わりをもつことで「元気をもらえます」との声が寄せられ、地域の人のやりがいにつながっている。